

森、川、海の恵み 守れ

サクラエビ異変 特別編

「サクラエビ異変」取材班が2018年暮れに活動を始めてから半年以上が経過した。サクラエビ漁師たちが危惧する、日本軽金属蒲原製造所(静岡市清水区)の放水路から出る強い濁水について、県はさまざまな分野の専門家で構成する「森は海の恋人」水の循環研究会を設置、濁りが海洋生態系に与える影響を調査し始めた。濁りの原因特定にはまだ至っていないものの、日経金が管理する雨畑ダム(山梨県早川町)に疑いの目が向けられている。取材班では今後も濁り問題の究明に全力を挙げる。

資源量の把握は難題

深冷蔵庫はがらんどろ

加工業者「仕事ない」

船主沈黙 苦渋の休漁

「長期的不安大きい」

「不漁の現場」

高い海水温

「蒲原に捨てる」灰色水

第1章 「母なる富士川」

第2章 「プール制」を問う

「漁師が独占」疑心暗鬼

資源管理 説得の「方便」

第3章 「台湾最前線」

「視界不良の港町」

深刻な不漁を業観 後悔

第4章 「海の宝石と共に」

大井川特

陸仕事助け合い 脈々

春、秋漁 追跡報道

「春漁前倒し終了」

漁獲上限250ト目安

産卵場確保に林漁区

早川本流も強い濁り

原因調査へ

富士川流域濁り調査へ

静岡県環境政策課

富士川濁り

追跡報道

「これが発端に導き」

「これが発端に導き」

※背景の写真は5月24日に静岡市清水区の富士川河口で行われた駿河湾サクラエビの天日干し

不漁の原因にきちっとメス

識者インタビュー 秋道 智弥氏

「森は海の恋人」水の循環研究会顧問



「森は海の恋人」水の循環研究会顧問の秋道智弥氏は、7月下旬に同研究会が発表した「濁りによるサクラエビの不漁原因」について、今後の研究の指針を述べた。秋道氏は「不漁の原因は、濁りによる海水温の上昇と、蒲原に捨てる灰色水による汚染が主である」と指摘し、漁師の休漁を促している。

取材班の主張

日経金蒲原製造所(静岡市清水区)に近い雨畑ダム(山梨県早川町)は、1965年10月に完成した。ダムは、雨畑川に貯水し、下流の富士川に放水する。取材班は、このダムが、サクラエビの不漁の原因の一つであると主張している。

濁り問題 早急に対策を

6月下旬にはサクラエビ漁の解禁が予定されている。取材班は、この時期までに、濁り問題の対策を早急に行う必要があると主張している。



●荒瀬ダムの取水口跡を指さす。つるつる子さんは、撤去により、球磨川は本来の流れを取り戻しつつある。7月20日、熊本県八代市坂本町。●球磨川支流の濁り川内川。本流から水が流れ込み、濁りに浸する地域の一つ。道路や住宅(右)はかさ上げされている。7月20日、熊本県戸田町



熊本県荒瀬ダム 堤高25%、堤頂長210.8%、総貯水容量1014万立方メートルの発電専用コンクリートダム。1965年竣工。約600%のトンネルで下流の熊本発電所に導水し約16%の落差を利用して発電。建設当時、一般家庭約2万世帯分の年間消費電力量を賄い、発電量は県内需要の約10%を占めた。撤去前は1%以下。球磨川に計画された川下ダム反対運動の高まりを背景に出資を経て、2010年2月、蒲原製鉄が最終的に撤去を表明。12年から6段階の工程を経て18年3月に撤去完了。総事業費約84億円。

ダム撤去 本来の清流へ

熊本荒瀬ダム跡、球磨川ルポ

熊本県八代市(市)で、日本天然水と称される球磨川。2018年、本格的なリハビリとして、撤去された荒瀬ダム(八代市坂本町)の取水口跡を、球磨川は本来の流れを取り戻しつつある。取材班は、このダムが、球磨川の水質を悪化させてきた原因の一つであると指摘している。

水害抑制、地域に活気

熊本県八代市(市)で、日本天然水と称される球磨川。2018年、本格的なリハビリとして、撤去された荒瀬ダム(八代市坂本町)の取水口跡を、球磨川は本来の流れを取り戻しつつある。取材班は、このダムが、球磨川の水質を悪化させてきた原因の一つであると指摘している。

哲学の視点で環境を考える世界の専門家はこう見る (要旨)

ダーモット・モラン氏 (米ポストン・カレッジ教授) できる限りを尽くせ

ヴィトリオ・ヘスレ氏 (米ノートルダム大教授) 疑いの目無視するな

